

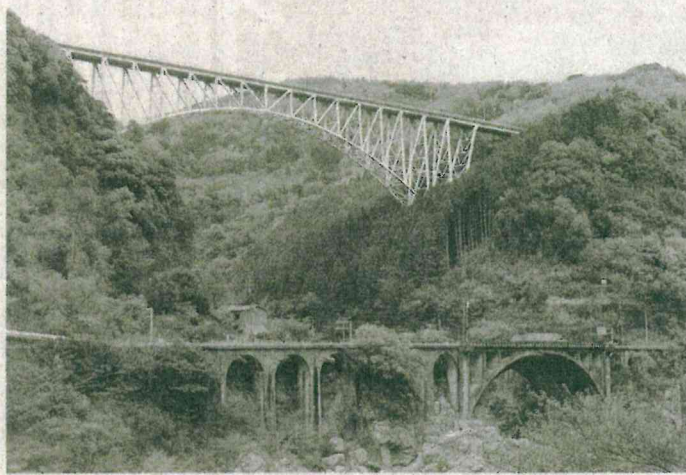
国の重文に指定へ

10/17
旧綱ノ瀬(延岡市)と第三五ヶ瀬川(日之影町)橋梁

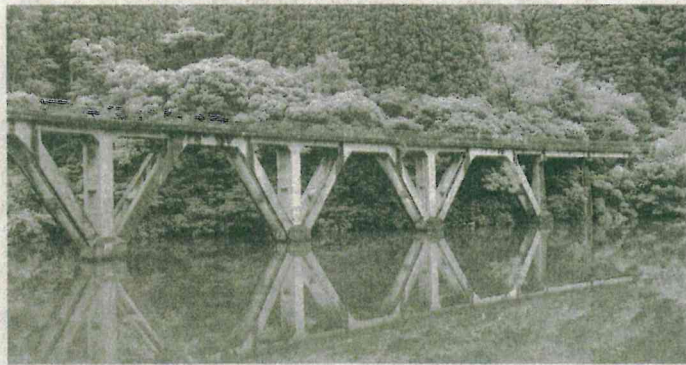
鉄道省時代の遺産 審議会が答申

国の文化審議会(佐藤信会長)は16日、鉄道省の時代に造られた延岡市・日之影町の「旧綱ノ瀬橋梁(きよのせりょう)と第三五ヶ瀬川橋梁」を国の重要文化財(重文)に指定するよう、秋生田光一(文部科学大臣)に答申した。近代遺産の国文指定は県内初で、鉄道施設が選ばれるのも初めてとなる。近く答申通り官報に告示される。

県文化財課によると、2橋梁を1件として指定。いずれも日中戦争と前後する昭和10年代の鋼



旧綱ノ瀬橋梁 (延岡市文化課提供)



第三五ヶ瀬川橋梁 (日之影町教育課提供)

核厚が指定された時期に、当時の鉄道省が最先端の技術を駆使して完成させた鉄橋で、近代コンクリート構造物の技術的到達点の一つとして高く評価された。

旧綱ノ瀬橋梁は1914年、千穂鉄道の亀崎駅・横峰駅間の五ヶ瀬川(綱ノ瀬川)との合流地点に架かり、1937(昭和12)年に完成。全長418.5メートル。鉄筋コンクリートの大アーチ1連は当時の鉄橋として最長の45メートル。その後、無筋コンクリートの小アーチ42連を組み合わせた構造。コンクリート橋としては

日本土木学会「いずれも選奨遺産に指定」

その中でも今回指定となるのは特に価値が高いとして、日本土木学会は2010年に第三五ヶ瀬川橋梁、12年に旧綱ノ瀬橋梁を選奨土木遺産に指定している。

高千穂鉄道は05年9月の台風で大きな被害を受け、08年12月に全線廃止。沿線市町は県などと積み立てた基金を活用し、鉄橋や駅舎、レールを鉄道施設を撤去しているが、両橋梁とも処分の対

初めて、副校長を主任として完成させるケープルエレクトロニクス工法が採用された。

第三五ヶ瀬川橋梁は同じく吾味駅に近い五ヶ瀬川本流に架かり、完成は1939(同14)年。全長約268メートルのV型鉄筋コンクリート連続方柱(母つぎ)ラーメン(橋桁・橋脚・橋台がつながった造り)と鋼製トラス橋(部材を三角形でつないだ造り)とを組み合わせた構造となっている。

これら高千穂鉄道日之影線の主要橋梁の設計施工は、コンクリート工学

2020.10.17

の権威であった九州帝国大学教授・吉田徳次郎博士による指導のもと、日本の土木技術を支えてきた人々の活躍があったとされる。

いずれも選奨遺産に指定

延岡市の観光山洋司市長は「旧綱ノ瀬橋梁の景観は非常に迫力があり、当時のわが国がいかに鉄道を重視していたかが分かる」とも、高千穂線を知らない子どもたちの学びの点でも、今回の指定は大変意義深いものと考えていますとコメント。

全国の鉄道ファンや研究者がじかに見ることでできる貴重な文化財となるため、今後は日之影町と連携しながら皇列りを「行つたせ」見学しやすい環境整備に努めるとともに、両橋梁を活用した東北地域の観光促進についても検討していきたい」としている。

県内の国指定重文は、鉄道狹犬、高千穂神社本殿、木造神像(以上高千穂町)、神門神社本殿(美郷町南郷区)、那須家住宅

教育にも生かしたい」と説明。旧綱ノ瀬橋梁についても、共有する延岡市観光面を含めた活用を検討していくという。

延岡市の観光山洋司市長は「旧綱ノ瀬橋梁の景観は非常に迫力があり、当時のわが国がいかに鉄道を重視していたかが分かる」とも、高千穂線を知らない子どもたちの学びの点でも、今回の指定は大変意義深いものと考えていますとコメント。